



ニコラ・ブルガリ ローマ生まれ。ブルガリグループ副会長。ギリシャから移住し一族の会社を興した才能豊かな金融巨頭。ソフィオ・ブルガリの孫。アンティーク・シルバーのコレクターとして有名なのは、モナポールの後継者、ピンネージ・カーのコレクターでもある。

第1章 楽しく生きる達人たち。

ローマはテヴェレ河畔のオフィスに、ブルガリグループ副会長ニコラ・ブルガリ氏を訪ねた。「重要なものは、古いものを守るがために自らも化石になってしまうのではなく、いつでも耳をそばだてて時代の流れを感じていることだ。それによって過去と未来、伝統とアヴァンギャルドを融合して

いく。口で言うのはたやすいがね。つまり、現在のブルガリの宝飾品は若者のジーンズにだって合うんだよ。分かるかね？ ほんとうは僕は、頑固な伝統主義者なのにもかかわらず！ 結局なんだかんだ言っても、みんな宝石をほしがるものなんだ（笑）」ブルガリ氏の特別の許可を得て、

ローマ郊外に自動車のコレクションを見せていただいた。一千六百平方メートルのガレージの中の総数三十台にも及ぶ名車の数々のうち、ほとんどはビュイック。現在のGMの礎石となったこのアメリカの優良企業は、つねにアヴァンギャルドなメカニズムを開拓し、それでいて目を見張るような美しいボ

左ページ：壁に掛かる絵はターノ・フェスタ作「ミケランジェロから」とジノ・ドメニチスの自画像（下・小さい図）。



ガレージ施設内にある居間は、ブルガリ氏のお気に入りの場所。車の写真や雑誌の切り抜きの額やビデオがいっぱいだ。



宝飾王の蒐集品

Capitolini : I Maestri della Vita

英国のエリザベス女王の黒のビュイック（1938年製）は、ローマ法王に贈られ、ブルガリのコレクションへ送った。



ローマ郊外にある1,600平方メートルのガレージに、総数30台にも及ぶ名車の数々のコレクションを持つ。映画「ラストエンペラー」で使われたビュイック（左の黒の車）は1934年製。アルファロメオは1933年製。

重要なのは、古いものを守るがために自らも化石になってしまうのではなく、いつでも耳をそばだてて時代の流れを感じていること。

ガレージにはブルガリ氏が小さい頃に作っていたプラモデルがところ狭しとディスプレイされている。



Alinda Bulgari

ニコラ・ブルガリ

デイと内装による、伝統のエレガンスを忘れることはなかった。聞くところによるとこれは、ブルガリ氏が終戦直後に見た、アメリカの高級車への憧れをコレクションという形で実現させたもの。子供の頃に雑誌などから丹念に切りぬいたビニール紙の広告は、きちんとスクラップされて保存されている。

次

に訪問したのは、ブルガリ氏の美術コレクションを十二年来キュレートしている、ローマのイル・ポリッティコ画廊。



パオラ・ガンドルフィの作品「キロギルランダ（手による花束）」

「二のシンプルなバスタを頑張りながら彼は思わず言ったという。「どうだい、うまいバスタは心の栄養にもなるじゃないか!」このひと言から、人生の喜びを見出すことの重要性について語り明かすことになった。伝統的でシ



画廊にて、経営者、アルナルド・ブリッパティ氏（右）とマッシモ・カッジャーノ氏。背後の風景画は、フィレンツェで活動しているカルロ・ベルトッチの作品「風説」。



上：マウリツィオ・カンナヴァッチョーロの「冬のメヌエット」（季節）とステファニア・ファブリツィの「双子」（真）。下：カルロ・マリア・マリアーニの「魅惑」。

ンプルなズッキーニのバスタに、人生のジョイア（喜び）を発見した夜、新しい作品発注のアイデアも生まれた。奇しくもイタリア語のジョイアには、「宝石」という意味がある。人生の喜びにオマージュを捧げる絵画というコンセプト



左ページ：ステファニア・ファブリツィの「女囚」。画廊には絵画のほか多数の彫刻のコレクションも。

トで、ジュエリーを作品に取り込んだものを、お気に入りの現代作家たちに描かせることになった。最近のブルガリ氏の趣味を反映して、あまり難解なものとは避け、比較的伝統的で具象的なものが選ばれている。



さらにブルガリ氏は、クラシック音楽やジャズの愛好家としても知られている。最近ではトスカーナの別荘に、日本人バイオリニスト渡辺玲子さんを迎え、小コンサートを開催したばかり。才能ある若いオペラ歌手やピアニストを個人的に応援しているという。現代イタリアの幸福なメチエナンテ（文芸保護者）は、つねに伝統を現在形で理解している。

人生の「ジョイア」——、喜びを発見した夜、新しいアイデアも生まれた。奇しくもイタリア語のジョイアには、「宝石」という意味がある。

